

ベトナム出張調査報告

調査報告者 谷 和明

1. 調査地域 ベトナム ハノイ市、ホーチミン市とその近郊地域
- 2 調査日程 平成 22 年 7 月 29 日 ～ 平成 22 年 8 月 7 日
- 3 調査機関・施設および協力者一覧

7 月 30 日 (金)

- 10 : 00 ハノイ国家大学外国語大学東洋言語・文化学部日本語学科
学部長 NGO MINH THUY 氏 ほか
- 13 : 30 ハノイ貿易大学日本語学部
学部長 NGUYEN VAN HAO 氏ほか
- 15 : 30 ベトナム日本人材協力センター
所長 小樋山 寛氏ほか
- 17 : 00 ベトナム学習振興会本部事務局
副会長 TRAN XUAN NHI 氏ほか

7 月 31 日 (土)

- 9 : 30 バクニン省ツーソン市ディンバーン (DINH BANG) 区共同学習センター
- 14 : 00 バクニン省トゥアンターン郡ソンホー (SONG HO) 村共同学習センター

8 月 1 日 (日)

- 9 : 00 ベトナム教育訓練省付属ノンフォーマル教育研究所
所長 THAI THI XUAN DAO 氏ほか

8 月 2 日 (月) (午前 ホーチミン市に空路で移動)

- 15 : 00 ティエンザン省ミト市 ティエンザン大学
学長 NGO TAN LUC 氏ほか

8 月 3 日 (火)

- 8 : 30 ティエンザン省教育訓練局
局長 TRAN THANH DUC 氏ほか
- 9 : 25 ティエンザン省ミト市ダオターン村共同学習センター
- 15 : 30 ティエンザン省ミト市タンミーチャン村共同学習センター

8 月 5 日 (木)

- 9 : 15 ロンアン省ベンルック郡フォックロイ村共同学習センター
省人民委員会副委員長 TRAN HUU PHUOC 氏ほか

8 月 6 日 (金)

- 7 : 00 ホーチミン市ビンチャン郡人民委員会教育課
教育課専門職員
- 10 : 20 ホーチミン市ビンチャン郡ファムバンハイ村共同学習センター
- 14 : 00 ドンズー日本語学校
校長秘書 TRAN HOAI THU 氏ほか
- 16 : 00 ホーチミン国家大学社会・人文科学大学東洋学部日本研究センター
センター長・日本学科長 NUGUYEN TIEN LUC 氏

4 調査概要

(1) ハノイ国家大学外国語大学東洋言語学部日本語学科（日本語教育・教員養成中心）、ハノイ貿易大学日本語学部（経営実務教育と日本語教育の統合）、ホーチミン国家大学社会科学大学東洋学部日本研究センター（日本学研究）という性格の異なる代表的な日本語・日本文化教育・研究機関を訪問し、責任者、日本語教育担当教員から現状、発展傾向、問題点について聴取した。

(2) ハノイ、ホーチミン両市の代表的な民間日本語教育施設を訪問し、それらにおける日本語教育の内容、日本への留学支援策、上記大学との協力・補完関係について聴取した。

(3) ハノイ、ホーチミン近郊の町村が運営する共同学習センター（CLC）6 か所を訪問し、それぞれを管轄、指導する省レベル、郡レベル、町村レベルの教育担当職員や学習振興会指導員から、事業内容、運営方法などについて聴取するとともに、準備した調査用紙による個別施設調査を行った。さらに、CLC の「生みの母」と言われているノンフォーマル研究所所長 DAO 氏から、CLC 形成過程や今後の問題点について貴重な情報を得ることができた。

(4) ベトナムでは近年各省において省立の総合大学の新設が続いている（戦後日本の新制大学ブームと類似した現象といえる）が、その代表例であるティエンザン大学を訪問し、大学の拡大構想や日本を含む海外との交流構想について聴取した。

5 個別機関についての報告

以下では上述のうち日本課程を置く 3 大学について特徴的な点を挙げておく。

(1) ハノイ国家大学外国語大学東洋言語学部日本語学科

1) 日時 2010 年 7 月 30 日（金）10：00～13：00

2) 応対者 学部長 NGO MINH THUY 氏

3) 調査結果

① ハノイ国家大学は、複数の単科大学の統合を経て 1993 年に発足した総合大学であり、南のホーチミン国家大学とともに大部分が単科大学であるベトナムの国立大学のなかで別格的存在とされている（首相直属であり、学部ではなく単科大学の集合体という制度）。外国語大学は 1955 年に語学教師や通訳等の養成を主目的に設立され、現在は英・仏・露・中の主要 4 言語以外にヨーロッパ、アジア諸言語・文化の教育・研究を行っている。継続教育や現職教員の訓練にも積極的に取り組んでいる。

② 日本科の教員は 20 名程度であるが常時 6 名ほどが日本の大学に留学している。教員は優秀な学部卒業者を採用しており、奨学金のチャンスがあれば、これら若い教員を留学させて修士などの学位を取らせる必要があるからである。

③以下のような学生、生徒を担当している。

ア) 学部学生：400 名程度。増加傾向にある。

イ) 夜間には社会人向け日本語コースも開設しており、約 600 名が受講している。講師は主に若手教員が兼業で負担している。

ウ) 付属高校で日本語を選択している生徒が 1 学年 120－150 名程度

④以上のような事業拡大に応じて、教員の負担は増加している。けれどもこれは、特に若手教員の給料があまりにも低すぎるのを補てんする副業的な意味がある。つまり人材の流失を防ぐため、夜間社会人コースのような副業機会を開設することが必要であり、それが学科指導部の手腕のみせどころになっている。

⑤ 9 月から日本の G30 の共同事務所が国家大学に開設されるが、それには日本語学科として協力した。

(2) ハノイ貿易大学日本語学部

1) 日時 2010 年 7 月 30 日 13 : 30～15 : 30

2) 応対者 学部長 NGUYEN VAN HAO 氏

3) 調査結果

① ハノイ貿易大学は国際ビジネス分野の専門家、実務家を養成するために 1960 年に設立された、社会科学系では最難関の大学である。経済・国際ビジネス学部、経営学部、財政・金融学部、国際経済学部、基礎科学部、政治学部の専門別学部とビジネス英語学部、応用英語学部、日本語学部、中国語学部、フランス語学部、ロシア語学科、ベトナム学科の言語別の学部があり、留学生を含む学生たちは専門系学部の科目と語学系学部の科目を組み合わせ履修して、会計学士、国際経営学士、ビジネス日本語学士等々の学位を取得する。

②インタビューに応じてくださった NGUYEN VAN HAO 氏は、1972 年に開設された同学の日本語通訳コースの第 1 期生で、卒業と同時に日本語科の教員となり（17 人の卒業生中 4 人がそのまま教員に採用された）、その後日本への留学や同学経済系大学院でのマスター取得等を経て、現在日本語学部のまとめ役をされている。そのかわり、ドンドー日本語学校（教員数 35 名、受講生数 750 名）というハノイでも有数の民間日本語学校を経営されている。

③日本語選択者は増加しており、ビジネス日本語学士コース履修者は約 1000 名にのぼる。30～40 人のクラスを 30 クラス実施している。大部分は経済、経営、会計などの科目 6 割、日本語 4 割の比率で履修している。日本語通訳コースの場合は日本語が 6 割となる。

④交流している大学は、名古屋大学、大阪大学、東京経済大学、立命館 APU、亜細亜大学、慶応大学等である。

⑤貿易大学のキャンパスには日本、ベトナム政府の共同で設置されたベトナム・日本人材協力センター(VJCC)がある。VJCC は(a)経営者や管理職養成のためのビジネスコース、

(b)ビジネス日本語コース、(c)留学・大学間交流支援や文化交流を実施し、(d)ベトナムで最大の日本文献図書館を備えている。これらの事業は、貿易大学教員の協力を得て実施されており、学生にも正規カリキュラムを補足する学習機会として利用されている。

所長の小樋山氏は、貿易大学の日本語履修者数がベトナムの大学中で最高であり、かつ卒業生の実務的な日本語運用能力も高く、就職率も高いことを評価していた。と同時に、同学での日本語履修時数が合計 600 時間と、ハノイ国家大学の 2400 時間と比して非常に少ないことを問題視していた。

(3) ホーチミン国家大学社会人文科学大学東洋学部日本研究センター

1) 日時：2010 年 8 月 6 日 16:00～18:00

2) 応対者 センター長・日本学科長 NUGUYEN TIEN LUC 氏

3) 調査結果

① ホーチミン国家大学はハノイ国家大学に並ぶ首相直属の総合大学として 1995 年に発足した。社会・人文科学大学には 25 の学部等がある。英語圏、ドイツ、ロシア、フランス、中国、イタリア、スペインは独自の学部・学科がある。日本は東洋学部（東アジア、東南アジア、大洋州・インド）の一部門となっているが、9 月から日本学科として独立する位になっている。

② 東洋学部の教員数は約 40 名、学生の入学定員は 250 名でそのうち約 3 割が日本語・日本研究専攻であったが、日本学科では教員 12 名（＋日本人教師 4 名）、入学定員 100 名以上に増員される。

③ 学生はマルクス主義・共産党に関する科目 31 単位、社会・人文系の共通科目と東洋研究の共通科目を 32 単位、日本語科目を 88 単位、日本研究科目を 21 単位、専門分野別科目を 10 単位、論文等 9 単位の計 210 単位を履修する。

④ 優等学位コースを 4 クラス実施している。主専攻学生以外に、副専攻としての受講生もいる。日本語教師の現職研修教育コースも開講している。

⑤ 教育・研究面で交流している主な日本の大学は、早稲田大、神戸大、法政大、神田外語大、大阪大、広島大、福岡芸術大、立命大、同志社大等である。

6 写真

ハノイ国家大学



外国語大学東洋言語学部日本語学科のエリア



東洋言語学部長室



ハノイ貿易大学



VJCC



ホーチミン国家大学



日本研究センター室前で



NUGUYEN TIEN LUC 先生
日本語教員、日本学の学生と